

甲

接 起	受 案	昭 和	六 年	五 月	三 日	施 行	昭 和	六 年	六 月	七 日	完 結	昭 和	六 年	六 月	七 日
殖 總 第 九 六 四 號						決 裁	昭 和 六 年 六 月 七 日	書 淨	校 合	送 發					

殖
產
局
長

總
務
課
長

主
任

文
書
課
長

秘
書
課
長

吉
蘭

野
村

島
福

次
官

大
臣

東拓ノ常勤理事増員ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ東洋拓殖株式會社ヨリ別紙ノ通聽許方願出アリタル
處同社ノ常勤理事ハ去ル昭和十三年四月一名ヲ増員シテ五名（此ノ
外參與理事三名）ト爲シ今日ニ至レル次第ナルモ其ノ後同社ノ專業

拓
務
省

ハ從來ノ營業地域タル朝鮮、滿洲、關東州、北支、泰國、南洋等ヨ
リ樺太、蒙疆、中支方面ニ擴張セラルト共ニ主要事業地タル朝鮮
ニ於テハ時局下各種事業ノ飛躍的進展ヲ見同社ノ業務部門及内容ハ
益々廣汎多岐ニ亘リ又其ノ業績モ最近良好ニシテ社業内容ノ充實ヲ
見ツツアリ斯クテ去ル二月ノ定時株主總會ニ於テハ資本金ヲ倍額増
資シテ一億圓ト爲スニ至レリスノ如キ狀勢ニ克ク對處シ今後社務遂
行所遺憾感キヲ期スルト共ニ其ノ發展ヲ圖ル爲今回常勤理事一名ヲ
増員セントスルモノナルガ業シ事情已ムヲ得ザルモノト認メラル
仍テ左案ニ依リ通知相成可然故

仰
高
裁

案

次
官

(起案用紙一號ノ二)



南洋拓殖株式會社總裁宛

常勤理事増員ニ關スル件

昭和十六年五月二十八日附本人第六一四號ヲ以テ申請ニ係ル常勤理事一名増員ノ件ハ支障無之ニ付御了知相成度依命此段及通知候也

拓務省

タイプライター用紙(赤澤納)

(日本標準規格B4)

研-0573

0036

16.5.31
拓務省
16.5.31
拓務省

本人第 六 一 四 號

昭和十六年五月廿八日

東洋拓殖株式會社
總裁 佐々木駒之助

拓務大臣 秋田 清 殿

常勤理事増員ニ關スル件

弊社常勤理事ニ付テハ昭和十三年四月二十日附殖理第五四九號ヲ以テ五
名ニ増員方御承認ヲ得今日ニ至リ候次第ノ處爾後朝鮮ニ於ケル業務ノ擴
充及北支、蒙疆、中支方面ヘノ進出等アリ社業漸次擴大セラレタルニ伴
ヒ現在員數ヲ以テハ社業運営上萬全ヲ期シ難ク且又今回資本金一億圓ニ

東洋拓殖株式會社

倍額増資相成リタル次第モアリ旁々今後一層社業ノ發展ヲ期スルタメ、
常勤理事ヲ一名増員ノコト、シ近ク開催ノ臨時株主總會ニ諮リ其ノ候補
者ヲ選舉決定致度候間右御聽許被成下度此段奉願上候也

研-0573



東拓役員

職名	氏名	就任年月日	満期日
總裁	佐々木 駒之助	昭和十四年五月十九日	昭和十九年五月十八日
副總裁	池邊 龍一	昭和十三年五月七日	昭和十八年五月六日
理事	齋藤 力	昭和十三年五月七日	昭和十七年五月六日
	上内 彦策	昭和十三年八月二三日	昭和十七年八月二二日
	中澤 正治	昭和十四年五月二三日	昭和十八年五月二二日
	江口 順一	昭和十四年五月二三日	昭和十八年五月二二日
	吉川 清七	昭和十四年五月二三日	昭和十八年五月二二日
參與理事	松本 健次郎	昭和十三年五月七日	昭和十七年五月六日
	八代 則彦	昭和十三年五月七日	昭和十七年五月六日

拓務省

監事	監事(常任)	監事	監事
明石 照男	望月 伸	堀 啓次郎	朴 興植
昭和十三年五月七日	昭和十六年五月二二日	昭和十五年二月二四日	昭和十六年五月二二日
昭和十七年五月六日	昭和十八年五月二一日	昭和十七年二月二三日	昭和十八年五月二一日

(日本標準規格 B.4)

タイプライター用紙(赤澤納)

研-0573

0038